

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4270201801		
法人名	有限会社 RAIMU		
事業所名	グループホーム来夢	ユニット名	
所在地	長崎県佐世保市日野町732番地		
自己評価作成日	2024年 12月 12日	評価結果 市町村受理日	2025年 3月 20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報 リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action_kouhyou_pref_topi&yosyo_index=true
--------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市中央区薬院4-3-7 フロー薬院2F		
訪問調査日	2025年 1月 28日	評価確定日	2025年 3月 6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

グループホーム来夢では、「らしく 生きよう 無限に」の理念を掲げ、1人ひとりの自己決定権を尊重し、利用者様との会話の中で本人の思いをくみ取り、意向に近づけ実現出来るようにと心掛けています。又、利用者様一人ひとりが出来る事を見だし、お料理が得意な方には食事の下ごしらえや料理をし味見をして頂いたり、ダンスの得意な方と一緒に音楽をかけて踊ったり、お散歩等も職員と共に行い、生き生きとした表情が見られ笑顔で暮らして頂けるように支援をしております。生活リハビリにも力をいれており、各個人の身体能力に応じた運動を取り入れ支援をしております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

“グループホーム来夢”は佐世保市日野町にある。ご利用者の方を“1人の人”として向き合い、お話を聴く姿勢と自己決定権を尊重することを大切にされている。内部研修も継続し、認知症の理解、記録の効率的な取り方、身体拘束、アンガーマネジメント、接遇、チームケア等の理解を深め、実践に繋げるように努めている。「ご本人の行動には必ず目的があり、何をしたいと思われているのかを見守る（見護る）」視点を大切に、職員個々が主体的に考える機会を作り、職員同士の助け合いも行われている。日々の生活では3食手作りで、献立のバラエティも広げており、ホームの畑の野菜とともに、ご近所の方から頂いた野菜（大根、白菜、ナスなど）で、ご利用者の方々と献立を考えている。日々のレクや体操なども継続し、洗濯物たたみ、ごみ箱作り、カレンダー作り、貼り絵作りを行い、季節の飾り付けも楽しませている。社長、課長ともに介護支援専門員であり、地域のネットワーク作りと地域貢献を続けている。法人内の生活支援コーディネーター（SC）による地域支援事業も継続し、特別支援学級の子供達や地域の方々の協力もあり、綺麗にラッピングした雑巾を幼稚園や保育園の子供達に配ることができている。SC活動を通して、ボランティアの方々との交流の機会が増えており、今後は更にお話ボランティアや高校生などとの交流に繋げていく予定である。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取り組みの成果 ⇩ 該当するものに○印		項 目		取り組みの成果 ⇩ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる （参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、 不安なこと、求めていることをよく聴いてお り、信頼関係ができています （参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと 過ごす場面がある （参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない			○	4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで 暮らしている （参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関 係者とのつながりが広がったり深まり、事業 所の理解者や応援者が増えている（参考項 目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが			○	3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで 生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている （参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ 出かけている （参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね 満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている （参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスに おおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に 応じた柔軟な支援により、安心して 暮らせている （参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が				
		○	2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員は、理念を理解し利用者様主体に取り組んでいる	代表が命名したホーム名「来夢」（らいむ）」に込めた意味、『「らしく」は“ご本人らしく”、「いきよう」は“命・生き生き”、「むげんに」は“継続して”』の実践のために、ご利用者の生活歴・生活習慣・行動の目的や背景等に共感し、個別の寄り添いやケアに繋げている。ご利用者の方々から自主的に声をかけてもらい、料理・掃除等を手伝って頂いている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の方に野菜を頂いたり、散歩時は近隣の子供達と話しをしたりしている。	代表が日野小学校の命を守る体験（高齢者の疑似体験）の講師を務めてこられた。法人内の生活支援コーディネーター（SC）による地域支援事業を続けており、特別支援学級の子ども達や地域の方々の協力もあり、綺麗にラッピングした雑巾を幼稚園や保育園の子ども達に配られている。日野小学校の生徒から寄せ書きを頂き、DVDでの交流が行われている。ホームへの訪問希望も頂いており、感染状況に応じた検討を続けている。	①SC活動を通して、ボランティアの方々との交流の機会が増えており、今後は更にお話ボランティアや、高校生などとの交流に繋げていく予定である。 ②近くに認知症カフェができており、ご利用者と一緒に行き、地域との関わりをもっていきたいと考えている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	広報誌・ホームページにて配信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今後は外部評価結果等を運営推進会議で開示し、ご意見を頂き地域との関係性を深めていきたい。	現在、グループホーム単独で運営推進会議を開催しており、感染対策で2階の広いフロアで行う。家族代表、地域住民、佐世保市職員、知見者等が参加し、ご利用者・職員状況、行事や研修実施報告、事故等を報告している。今後も議事録を全ての家族と共有していく予定である。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	申請届や、報告等の際には行政に相談している。	法人内の生活支援コーディネーター（SC）が主となり、2020年度から地域支援活動が続いている。佐世保市との情報交換も続けており、認知症カフェなどの立ち上げから関わっている。代表は県の役職（人材確保、介護福祉士会会長など）と佐世保市グループホーム協議会の会長を務め、地域支援推進員、認知症介護指導者として長崎県下の地域包括会議等でアドバイスしたり、県や市の依頼を受け、講師として認知症の講習などに協力している。管理者やケアマネの方々も佐世保市を訪問し、運営推進会議の報告書等も持参して情報交換している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会や職員会議等で毎月身体拘束委員会の議事録を回覧して、何が不適切ケアになるのかを再認識している。	「自分がされて嫌なケアはしない」が基本であり、法人内で身体拘束（虐待）の内部研修や委員会活動を継続し、日々のケアに繋げている。身体拘束の理解はテスト式で行い、不適切ケアについては事例を挙げて意見交換している。外部研修等に参加し、身体拘束廃止・虐待防止の知識を得るとともに、ご利用者への言動やケアを、お互いに注意し合えるようにしている。職員は都度反省し、振り返りに繋げている。	①今後は更に不適切ケアに通じる行為があった際、身体拘束廃止委員会等への報告の仕方を検討していくとともに、マニュアルの見直しも行う予定である。 ②虐待防止委員会も同じ時間で行われており、記録のあり方を検討していく予定である。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会や研修会にて虐待の防止について学び、しない、見過ごさない環境作りに努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人制度を利用されている入居者がいる。その方の金銭管理等を通じて、権利擁護を学ぶ機会を持っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約・改定の際は、ご家族に事前に案内文章にて説明を行い、また、問い合わせ等についても、十分な説明を行っている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	内容により、頂いたご意見と回答を広報誌に掲載していく。又職員に周知し改善に努めていく。	感染状況に応じた面会を検討しているが、家族の要望を伺うように努めており、日々のケアに活かしている。広報誌（毎月）と写真付きのお便り、電話等で日々の暮らしぶりを報告し、薬の変更や金銭管理状況等は管理者から密に家族に報告している。「昔よく行っていた市場に買物に行きたい」という要望があり、食材等を市場と一緒に買いに行くようにした。今後も毎月の広報誌に記入用紙を同封し、家族からの意見を頂けるよう努めていく予定である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロアーに職員からの意見箱を設置し、毎月の職員会議で検討し、勤務や業務内容についても理解し、不安や不満がなく働けるように配慮している。	管理者と職員は結束しており、職員の不安や要望を丁寧に把握し、個々の対策を行ってきた。職員の得意不得意を把握するとともに、チームで支えあう体制も強化し、入居者と職員個々の負担を減らす介護技術の指導も続けている。人員体制で苦勞する時期もあり、系列職員の応援を受けるとともに、職員募集を続けている。社長も現状を理解しており、更なる職員体制、業務改善などの改革を検討している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	有休休暇やシフト調整等協力的で働きやすい環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	OJTでの教育システムを導入。実践、及び勉強会でのスキルアップを目指している。社外研修会はウェブを積極的に活用しており、認知症ケアでは実践者研修等への参加を促している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の会議や勉強会に参加出来ている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の正面から近づき、視線を合わせ話しかけます。ゆっくりとご本人のペースに合わせポジティブな言葉をかけスキンシップをとっていきます。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	来所時は利用者様の体調や近況をお話しし、薬の変更等事細かに電話で説明を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族の要望に対し支援内容の共有を職員間で行い報告・検討がされており、ご家族の気持ちを慮り一つ一つお伝えし安心感をもって頂いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	同じホームの中で暮らす中で、それぞれの得意なところを活かし、役割を持って頂き共に家事を行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の広報誌に行事等写真入りでお知らせし、お一人お一人の近況を担当職員がメッセージを書き関係を構築している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出の機会があれば、ご本人の希望に添えるようにしていきたい。	日々の会話の中で家族構成や生活歴等を把握し、記録している。家族と一緒に自宅や外食に行かれたり、携帯電話で家族とお話をされる方もおられる。ご本人の思い出の場所を含め、外出の機会を増やすことを検討している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一緒に作業をしたり、皆で歌を歌ったり、発語がなくても表情で解り合える関係作りをしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	死亡退所の方は葬儀に参列させて頂いたりしたが、今後退所後はご本人に近況を聞いたり、必要時はご家族ともお話しをしていきたいと思います。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一緒に行動したり、お話しをする中で、ご本人の希望や嗜好等を把握し個々のペースで支援している。	ご利用者の真の願いを引き出せるように努めている。意思疎通が難しい方もおられ、表情や言動を丁寧に確認するとともに、家族にも教えて頂き、日々のケアに繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の生活歴の情報やご家族との会話の中で把握し、職員間で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメント情報を基に、ご本人と関わりながら状態観察を行い、職員間で統一した対応ができるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	実施表を毎日チェックし、それを基に意見交換を行い、変更・更新を行っている。	週2回ケアマネ（課長）が勤務してアセスメントを続けており、職員と情報交換している。「介護サマリー兼アセスメントシート」「課題分析項目」に家族状況、既往歴、性格等を記入し、ご本人と家族の要望を伺いながら、日々の生活の中で役割を発揮できるよう努めている。「お盆拭き」「茶碗拭き」「洗濯物たたみ」「トイレで排泄」等、ご自分でできる事をして頂いており、医師や歯科医師、訪問看護師からのアドバイスもあり、適宜、計画の見直しをしている。	①今後も生活歴や心身状況（ADL・IADL等）の能力、認知能力、介助理由、各活動の要望、解決策等をアセスメントに増やすとともに、行動障害の背景、事故発生時に分析した内容と対策もアセスメントに追記していく予定である。 ②アセスメント内容、ケア内容に基づき、3表を含めた個別サービス計画を作成していく予定であり、家族との話し合いに活かしていく予定である。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日誌や伝達ノートで日常の変化や新しい取り組みは伝達し共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	新しい取り組みやサービスに対しては管理者で協議し、全職員で考え、出来る範囲で柔軟な対応はおこなっている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問美容室等利用しており、常に地域資源がないか検討している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内服の変更等は、ご家族にご本人の状態説明と薬の内容を説明し、他科受診時も受診後の説明を電話で行っている。	24時間体制でホームの准看護師に相談でき、協力医療機関との連携もできている。往診(月2回)や訪問看護(毎週木曜日)も受けており、歯科医師(月2回訪問、必要時は適宜)とも連携し、歯磨きの仕方や舌の状況等に応じたアドバイスを受けている。今後も職員の観察力を深め、早期対応に繋げていく予定である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護の来所の際、個々の状態と内服薬の変更を報告しており、指導してもらっている。NS不在時は内容を報告している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は密に情報交換を行い、退院後のホームでの対応等助言をして貰っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階での話し合いが出来ておらず終末期をどうしたいのか、ご本人とご家族の意思を尊重し、職員間でも共有していきたい。	入居時に終末期のホームの方針を説明し、意向確認している。ご本人・家族と話し合い、希望があれば主治医の判断の基でターミナルケアが行われている。医療的な設備がなく、延命治療や重度化した場合は主治医に相談し、医療機関に搬送している。「最期は病院で」と希望される方も多く、病状に応じて家族も受診同行し、医師と話し合いをしている。2021年度にホームで初めての看取りケアが行われ、家族もお1人ずつ面会して頂き、職員全員で誠心誠意のケアが行われた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルに沿って行動するようになっているが、訓練は実施していない。勉強会は実施している。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	火災・地震・水害についてはマニュアルを作成している。地域と共同しての防災訓練は実施していない。	年2回（7月は夜間想定）、消防署と避難訓練し、アドバイスを受けている。災害時は一番奥の角部屋に踏み台を移動し、避難できるようにしており、運営推進会議で訓練の写真を共有し、報告している。隣接の施設「あかり」や相浦地区の自衛隊の方々も在住し、地域住民との協力体制ができています。高台に公民館があり、地域の3つの施設とともに、地域住民を含めて避難場所を振り分けている。SC活動の中で「支えあい推進会議」があり、代表が主となり「おせっかいネットワーク」の活動も続けており、災害時の更なる応援体制が作られている。BCP（災害時の事業継続計画）と各事業所で災害時マニュアルを作成し、法人全体での取りまとめをしている。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	高齢者に対し尊厳をもった声掛けを心がけているが、方言で対等に会話をしたり、言葉を繰り返す言う事がある。	ご本人の行動には必ず目的があり、何をしたいと思われているのかを見守る（見護る）事を職員と共有している。「自分がされて嫌な事はしない」を念頭に、認知症にとられず、1人の人として、きちんと向き合い、お話を聴く姿勢と自己決定権を尊重するように努めている。職員の言動が強くなる場合は管理者等が注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思を尊重し、無理強いはいはしないようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせ、希望により時間を調整している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴準備時に色合いを考え選定したり一緒に選んでいる。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	準備はテーブルを拭いて頂き、片付けは食器とお盆をふいてい頂いている。	2021年から3食とも手作りに戻し、献立のバラエティーを広げている。ホームの畑でオクラやトマト等を収穫し、ご近所の方から頂いた野菜（大根、白菜、ナスなど）で、ご利用者とメニューを考えており、1皿1皿分けて盛り付けしている。ご利用者の方々もモヤシの長さをカットしたり、食器拭き、お盆拭き等をしてくださり、おやつ作りも楽しまれている。定期的にバイキングを行い、ホットプレートでピザやお好み焼き作りを楽しまれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量とも表に記入するようにしており、毎月の体重測定の数値と採血時アルブミン値で栄養状態を見ている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後行っており、職員が仕上げ磨きをし口腔内の観察を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄サインや言動を把握しトイレ案内を行っている。	排泄が自立している方もおられ、ご本人の仕草や行動を観察し、必要時の誘導をしている。夜間のオムツ交換の回数を減らすため、両吸収シートを使用して安眠できるようにしている。移乗方法、オムツ交換の仕方、オムツの選定方法などを職員同士で検討し、管理者からの指導も受けている。大きな声でトイレの声かけをしないように努め、見守りが必要な方でもドアは少し見える位まで閉めるようにしている。失禁時も安心感のある声掛けを心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲水量は毎回チェックし内服薬での排便コントロールは行っているが、排便体操を取り入れていきたい。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	介護度が高く、個浴では対応できない方はシャワー浴になっており、設備上出来ない事がある。	入浴の習慣や回数、時間等をお聞きしている。週2回を基本としているが、失禁時は適宜シャワーをしている。湯船に浸かり、職員に思いを伝えたり、歌を唄われている。心身状況に応じて2人介助を行い、できる範囲はご自分で洗われている。入浴剤の香りを変えたり、お茶殻を乾燥させ、お茶湯を楽しまれており、リフレッシュできる音楽をかけている。浴室とリビングが離れており、職員のアイデアで浴室にチャイムを付け、応援を求めることができる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	エアコンと加湿器で室内温度は調整しており、寝具もご家族持ち込みでボア仕様の暖かいものを使用している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診時、看護師と主治医が相談し、変更があれば伝達ノートで共有し次回往診時まで日誌に記録を残すようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	好きなお菓子や衣類を買いに行ったり、美容室でカラーをされている。色々したい事はご利用者と一緒に考え対応している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご利用者の希望があれば、可能な限り対応している。	ホーム周辺を散歩し、野菜の収穫、近所の庭先の花見をされている。ドライブで紫陽花見学を楽しまれ、美容室やスーパーにお連れしている。森きらら（九十九島動植物園）へ外出し、手作りのお弁当を楽しまれ、動物や植物と触れ合うことができた。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理に出来る方は買い物で使用されている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者の要望があればご家族に電話したり、携帯にかかってきたら取り次いでいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下に季節感のある貼り絵、飾りをしている。加湿器を増やし湿度調整をしている。	リビングに観葉植物を置き、リラックスできるようにしており、換気も続けている。車いすを利用する方の姿勢調整のために足台を作られたり、車いすのまま体重を測れるよう体重計に木材で枠を作っている。ドアの開閉修理や壁紙の張替え、浴室のシャワーの位置の変更、古い家具の処分を行い、更なる整理整頓や職員の動線に応じた環境改善が行われている。フロアーに加湿器を2台追加購入し、感染対策でオゾン発生装置の機器を導入している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室に小さなテーブルを置き、飲食が出来るようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真、ぬいぐるみを置き、リラックス出来る室内にしている。	居室入り口に名前や居室の写真を貼っている。馴染みの筆筒、毛布、湯呑み、動物の写真集、編み物の毛糸と編み棒を持参している方もおられ、家族の写真も飾られている。ご自分で筆筒の整理整頓をしたり、モップで床掃除をされる方もおられる。居室のオムツ収納で3段ボックスを購入し、目隠しにカーテンをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレが判るように、入口に大きく表示する。居室内の清掃を一緒に行う。		